

ユネスコ事務局長と懇談 松本文科大臣「協力強化していく」



エルアナニー事務局長㊦と松本文科大臣

記念フォーラムに先立ち、松本文科大臣は国連大学の会議室でユネスコのエルアナニー事務局長と会談した。

松本文科大臣は「『人の心の中に平和のとりでを築く』というユネスコの理念は、国際情勢が激しさを増す今こそ重要だと考えている。文科省は教育、科学、文化の各分野でユネスコに貢献してきた。今後も協力を強化するとともに、エルアナニー事務局長の下で進められる取り組みを支持していく」と述べた。

エルアナニー氏は、エジプトの観光・考古大臣を務めた後、昨年10月にユネスコ事務局長に就任した。エルアナニー事務局長は「75年という関係の構築を祝うとともに、(日本との)強じんなパートナーシップを引き続き築いていくため訪日した。日本には多額の寄付をもらっているが、その寄付以上に日本の専門性、知見をもってして、組織へのサポートをしてもらっている」と感謝の言葉を述べ、引き続きのサポートを求めた。



パネルディスカッションで、日本の取り組みを高く評価するエルアナニー事務局長(右端)

記念フォーラムでは、エルアナニー事務局長と日本国内ユネスコ関係者によるパネルディスカッションが行われたが、討論の中でエルアナニー事務局長は「平和とは教育・科学・文化だ」と強調。引き続き、世界各国の教育水準の向上、文化遺産の保護、科学技術の発展などに取り組み決意を示した。

記念フォーラムでは、エルアナニー事務局長と日本国内ユネスコ関係者によるパネルディスカッションが行われたが、討論の中でエルアナニー事務局長は「平和とは教育・科学・文化だ」と強調。引き続き、世界各国の教育水準の向上、文化遺産の保護、科学技術の発展などに取り組み決意を示した。

政府、国際平和と発展に貢献する考えを示す
日本のユネスコ加盟75周年記念フォーラム

日本は今年、ユネスコ(国際連合教育科学文化機関)に加盟して75周年を迎える。これを記念して5月20日、東京・渋谷区の国連大学で、ユネスコ事務局長のハーリド・エルアナニー氏を迎えて「日本のユネスコ加盟75周年記念フォーラム」が開催された。

戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない――。「ユネスコ憲章」前文にそう記されているように、ユネスコは教育・科学・文化の協力を通じて平和の構築を目指す国連機関だ。1946年11月に創設され、日本は1951年7月に加盟した。現在、加盟国は194カ国。フランス・パリに本部を置き、世界遺産の保護をはじめ、教育・科学・文化の各分野で、平和の基礎をつくる事業を展開している。

記念フォーラムでは日本が加盟からこれまでを振り返るとともに、未来に向かって、どのような新たな協力ができるかを考えた。冒頭、茂木敏充外務大臣と松本洋平文部科学大臣があいさつ。茂木外務大臣は「地球規模の課題が深刻さを増す中、ユネスコ憲章を具現・実現していくためには、ユネスコがより一層その力を発揮していくことが必要不可欠だ。日本政府としても、ユネスコの活動を支援し、さまざまな分野で協力しながら国際社会の平和と発展に貢献していく」と語り、松本文科大臣も「本日のフォーラムが日本のユネスコへのさらなる貢献と、国内におけるユネスコ活動の一層の発展につながることを祈念している」と述べた。